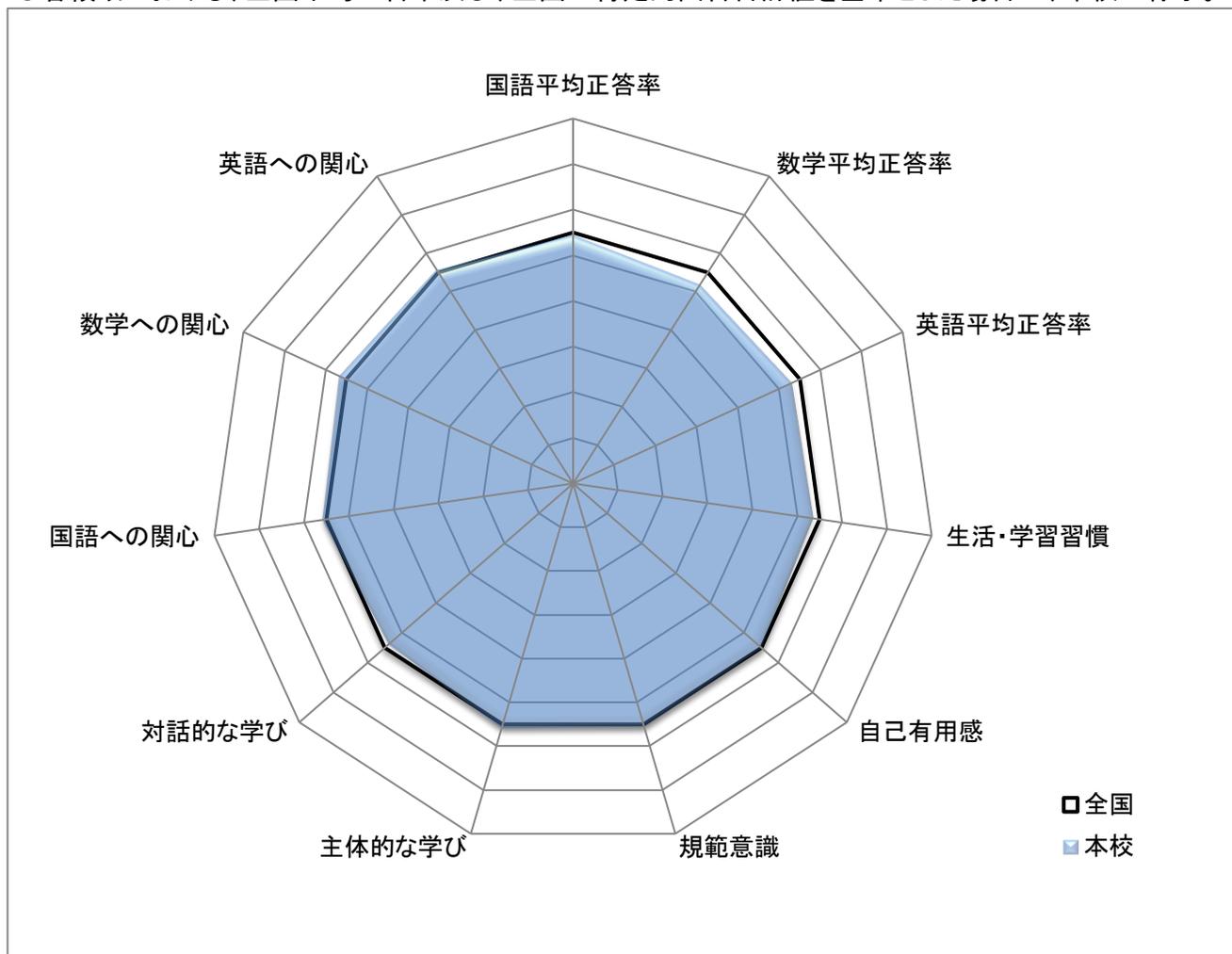


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

・「協同的な学び合い」の授業を推進して、今年で年6目を迎える。コの字の机配置と少人数班による話し合い・学び合いを交えた学習活動も毎年成果と課題を分析することにより、発展してきた。本学年は、お互いに声をかけ合い、学びに向かう姿勢を自らが整えていく「主体性の高い学び」が見られる。一方で、発言を活発に行う生徒と、聞き役になる生徒と役割が固定化してしまう課題もあり「対話的な学び」の意識が低くなっているといえる。

《授業改善のポイント》

- ①「対話的な学び」活動の向上  
グループ活動において役割が固定されないよう、皆に発言を促す展開を行う。自己の意見を他者に伝えること、また、他者の意見を聞き自己の意見を振り返ることを意識させる。
- ②基礎・基本の定着  
区のベーシックドリルや、教科ごとの問題集を活用し、基礎基本の定着を図る。また、学んだ内容を表現する機会（家庭学習ノート、小テスト、授業内発表、グループ活動、等）を活性化させる。

《チャートの特徴》

- ・全体的にバランスのとれたチャートとなっているが、各教科の正答率はほんのわずかに全国値を下回っている。
- ・数学への関心が高く、授業でも積極的に問題に取り組む姿勢が見られる。このことがチャートにも表れている。
- ・規範意識に対しての分析結果が全国値をやや上回っている。
- ・「主体的な学び」に対する意識が高い一方、「対話的な学び」に対する肯定的なとらえた意見がやや低い。
- ・今年度実施された英語の「話すこと」は、半数の生徒が1問、もしくは数問解答判別不能になっていた。

《家庭・地域への働きかけ》

本学年は、家庭学習ノートを1年の時から毎朝確認し、提出率を学年だよりに掲載している。提出率はとても高く、保護者の協力あってこそである。今後はより一層「充実した学び」になるよう働きかけていきたい。

